



森ボラ 通信

第105号 2011年 2月20日発行

NPO法人 北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ トピックス

◆ 2月セミナー「北方四島の生きものたち」

2月21日(月) 13時30分定刻より、ラルズビル4階会議室にて2月セミナーを開催しました。参加18名。講師は小林万里(東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科準教授)さん。新進気鋭でワイルダーの雰囲気だよう学者です。話のはざれがよく。言葉がすっきりと耳にとどきました。いま日露間で係争中の北方領土のことです。北海道民として関心が高い地域の話でしたので、質疑も活発でした。結論としてロシアに占拠されている国土が、極めて豊かな自然が保全されていることを知らされました。海獣類、陸獣類、海鳥類いずれも密度濃く健全な状態であることは素晴らしいことですが、昨今のロシアの開発意欲が伝えられるについてこの状態を維持できるのかが心配されます。



特に、いてもよさそうなエゾシカがまったく棲息していないことです。理由をはっきりしないが、推測ではヒグマに食べられたか、ハンティングが盛んなので人に撃たれて食べられたかでしょう。(記 高野)

◆ 会員例会



2月21日。セミナー講演の後、会員例会を行いました。6人ずつの3班に分かれて、先般のアンケートの回答をテーマにして、「会の活性化」について、意見を交換しました。今後の方針に盛り込まれてゆくことになるでしょう。さらに組織改革についての打合せを始めたグループもあり、新年度からの実施に向けて準備が進行しています。(記 高野)

■ 現場より

◆ 澄川、新入会員の初参加

2月17日(木)参加14名。新入会員の^{たくじ}小田拓治さん、^{たかあき}関根崇敬さんが初参加。小田さん29歳、関根さん26歳で参加者の平均年齢が一気に若返りました。両者は同じ職場の同僚とのことで、現役ですからウィークデーの参加は厳しいので土曜日の参加になるでしょう。ノコもナタも扱い慣れていない様子でした。まずは初歩からぼちぼち技術を習得していただきましょう。1月から4度目の雪中作業ですが、これまでは手ノコで小径木を処理してきましたが、この日からチェーンソーとチルホールを使うやや太めを対象にした作業に入りました。チェーンソーが唸ると作業に活気が漲ります。ソリに乗せての集材も始まりました。(記 高野)



左 関根さん、右 小田さん

■ 外部活動報告

◆野幌森林再生活動連絡会 出席報告

平成23年2月4日野幌公民館で石狩地域森林環境保全ふれあいセンター主催の首記会合が開かれて11協定締結団体26名が出席しました。22年度の活動報告と23年度計画が主な議題で監視カメラによる森林動物の報告もされましたが大きな被害は出ていません。

当協会は42林班の1.87haを2005年6月から手作業による地拵を開始していままで約340人・日が参加して非常に優秀な成績を収めています。もう植えた木も自然発生した木も背丈以上に伸びておりあと2年下草刈に精をだしましょう。今年は下刈とともに生育調査を行う計画です。(記 酒井)

◆オーストリア大使館「森からのエネルギー創出」出席報告

国際森林年行事として平成23年2月15日札幌グランドホテルにて首記のシンポジウムが開かれました。基調演説のほかオーストリアの森林技術・資源の紹介、熊崎実先生の「木質エネルギービジネスの展望」「木造住宅のルネッサンス」などの講演の他にオーストリアからの輸入森林技術関連企業4社 バイオマス関連企業7社 建材2社の企業プレゼンテーションが行われました。オーストリアは小国ですが森林技術では北欧とともに先進国で架線集材機の発祥の地でもあります。日本同様木材価格の低迷で問題はあるも日本のように放置林問題はないとのことでした。

私は「森林ボランティア団体はありますか?」と懇親会までねばって聞きまわりましたが答えはノーでした。政府が個人山も含めてしっかりフォローしているからとのことでした。(記 酒井)



ミュラー社の特許斧

■ 記録整理

◆これまでのセミナーの記録

創立以来続けている冬期の勉強会(セミナー)を整理しました。2002年の初回から数えて35回にもなっています。36、37回も決まっています。いろいろ勉強してきたことがよく分かります。良い伝統として今後も継続されることを期待します。(記 高野)

回	年	月	日	開催場所	講師	所属	テーマ	参加
1	2002	11	29	かでの・27	酒井和彦	会員	森を守るということ	36
					三浦 裕	会員	ボランティア活動を考える	
2	2003	1	15	かでの・27	湊 克之	会員	森林作業と労働災害	33
					加治豊美	会員	森林施業と関連用語	
3	2003	2	24	リンケージ	市消防局	消防士	普通救命講習	27
4	2003	3	18	リンケージ	千葉 到	会員	山腹斜面と森林	
					高野 豊	会員	ミャンマー乾燥地帯の緑化状況と森林保護	
5	2003	12	16	森林総研	猪瀬光雄	総研研究員	北海道の森林の役割	26
					佐々木尚三	総研研究員	羊が丘実験林と保護作業について	
6	2004	1	16	リンケージ	斉藤允雄	りんご園主	りんご園の作業について	31
7	2004	2	19	リンケージ	酒井和彦	会員	ホンデユラス訪問報告総括	30
				リンケージ	高野 豊	会員	ホンデユラスの生き物たち	

8	2004	4	2	リンケージ	石島しのぶ	会員	三角山をめぐる人の輪と縁	27
9	2004	12	15	かでの・27	橋場一行	元林業試験場総括SP	森林の多面的機能の発揮に資する森林施業について	36
10	2005	1	17	リンケージ	棟方鋼男	会員	日本の森林と針葉樹人工林&えりも緑化のビデオ	31
11	2005	2	9	リンケージ	酒井和彦	会員	北海道におけるパイオマスプラント	35
12	2005	3	4	リンケージ	湊 克之	会員	森の思想が人類を救う	32
				リンケージ	高野 豊	会員	屋久島の話	
13	2005	12	14	ちえりあ	板垣恒夫	A.P.L. ボランティアG.	空中写真とその活用	19
					渡辺 宏			
					若森邦保			
14	2006	1	17	リンケージ	松村清松	会員	戦時中国での植樹活動	29
15	2006	2	17	リンケージ	新田啓子	会員・芸術の森回廊基金	エゾモモンガの話	19
16	2006	3	16	リンケージ	棟方鋼男	会員	除伐・間伐の意義と方法	24
17	2006	12	18	リンケージ	高野 豊	会員	スズメバチの話	20
18	2007	1	12	リンケージ	三浦 清	元北大教授	キノコの不思議	16
19	2007	2	9	リンケージ	原 雅彦	石狩森づくりセンター	あいさつ	23
				リンケージ	武田砂名夫		飾り炭の焼き方	
				リンケージ	清水野 覚		移動式炭化炉による炭焼きのコツ	
20	2007	3	20	リンケージ	西野悌三	会員	北海道遺産について	20
				リンケージ	寺沢 実	北大教授	樹液の話	
21	2007	12	12	リンケージ	浜 久美子	EnVision 環境保全事務所	フォレストボードウォーク活動の話	21
22	2008	1	10	リンケージ	竹田貴彦	王子製紙研究員	バイオマスヤナギの話	30
23	2008	2	8	リンケージ	酒井和彦	会員	CO2 吸収量の計算	24
				リンケージ	市山勝一郎	会員	XI 払機の安全操作	
24	2008	3	5	リンケージ	湯澤利一	会員	山菜三昧	26
				リンケージ	寺沢 実	北大教授	バイオトイレの話	
25	2008	12	17	リンケージ			DVD 観賞	31
26	2009	1	19	リンケージ	野間 勉	道環境科学研究センター	ヒグマの話	27
27	2009	2	28	リンケージ	矢澤 滋	会員	ヒマラヤ・ネパール トレッキング報告	27
28	2009	3	28	リンケージ		札幌市防災協会	普通救命講習	20
29	2009	12	22	リンケージ			DVD 観賞	23
30	2010	1	18	リンケージ	玉井 裕	北大農学研究科準教授	根粒菌の話	22
31	2010	2	13	リンケージ	西宗 昭	北農会農学博士	農業をとりまく環境・生物多様性について	14
32	2010	3	4	リンケージ	八巻一成	森林総研研究員	市民参加による森林管理の在り方	23
33	2010	12	10	ラルズビル	森本淳子	北大農学研究員準教授	風倒跡地の植生回復	21
34	2011	1	13	リンケージ	村上孝三	会員	ギョウジャニンニクの話	20
35	2011	2	21	ラルズビル	小林万里	東京農業大学準教授	北方四島のいきものたち	18
36	2011	3	24	リンケージ	宇野裕之	北海道総研機構研究主幹	エゾシカの話	
37	2011	4	6	小樽博物館	北原 武	小樽野草の会会長	森の野草の話	

■ 今月の幹事会

出席者：市山、荻田、酒井、佐野、高野、津金、釣井、西野(悌)、矢澤、山中、和田

審議および決議事項

- 1 1月の作業実績⇒報告
- 2 3、4月スケジュール 微調整⇒支笏湖CGCの森 エゾシカ足跡調査(3/19)を追加、4月セミナー設定
- 3 2011年度年間作業計画⇒検討、一部調整、道新ぶんぶんの森日程未確定
- 4 野幌森林再生活動連絡会の報告⇒概要報告(酒井)
- 5 組織改革案の検討⇒広報、業務、助成、啓蒙の4委員会の内容検討
- 6 3月セミナー会場変更⇒リンケージプラザ第三研修室を確保
- 7 創立10周年記念行事委員会の準備をしよう

■ 3月の作業

●澄川

雪の中での除伐作業です。チェーンソーを使用します。殆どが懸り木になりますので、チルホール操作を伴います。一方で手ノコによる小径木の伐採も同時進行しています。さらに集材ソリが往来しますので、各自周囲の安全確認を怠らないようにしましょう。

●リンゴ園

28日から始まります。例年とおりの剪定枝集めです。雪が溶け次第チップパーによる枝の粉碎に入りますので、チップパー作業位置に集積しておきます。

■ おしらせ

◆支笏湖CGCの森 雪上トレッキング 参加者募集します。

3月19日(土)9時30分

集合場所：真駒内国道453 常盤神社前 P(支笏湖方向の左側)

注意)CGCの森での雪上のエゾシカの足跡の調査をします。

往復10kmなので、歩くスキーもしくはスノーシューの装着が必要。健脚が要求されます。

◆ 3月セミナー

3月24日(木) 15時からリンケージプラザ2階3号室

講師 宇野裕之氏 「エゾシカの話」

■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
2月21日(月)	セミナー	18名	東京農業大学生物産業学部 準教授
2月17日(木)	澄川	14名	冬期除伐
2月14日(月)	2月幹事会	11名	
2月10日(木)	澄川	16名	冬期除伐
2月3日(木)	澄川	11名	冬期除伐
1月27日(木)	澄川	13名	冬期除伐